

「クラシノコアゲ応援団」福島県中央街頭行動第9弾

2017春闘は日本経済全体の底上げのため重要

～子どもを産み・育てる権利の条例化が必要～

クラシノコアゲ応援団・街頭行動第9弾は、12月22日午後5時から福島駅東口（中合前）にて、連合福島と県労福協の共催で連合福島の役員が中心となって開催された。

冒頭に主催者を代表して今泉裕連合福島会長が「政府は働き方改革の中で同一労働・同一賃金のガイドラインを示す内容が報告された。1985年に派遣法改正されて以来改正が相次ぎ、そして規制緩和による適用範囲が広がり製造分野にも派遣



主催者代表挨拶をする今泉会長



金子民進党県連代表代行

社員が拡大してきた。それが結果

として格差問題を生み出すキッカケとなり、子供の貧困につながっている。連合は給付型奨学金制度の導入に向けて取り組んでいるが、それは奨学金だけの問題ではなく、子どもを守る・育てる権利を条例化するなど子供を産み育てる環境づくりが必要と考えている。2017春闘を取り巻く環境は決して良くないが、迎えて5年目となる官製春闘だが本来は労使の話し合いによるもの。しかし、今や日本経済のしくみに組み込まれており、日本経済全体の底上げのためにも重要になる。福島の復興にむけ故郷に戻ってもらうまでの労働条件・労働環境を整えるためにも賃金アップはその中心になる。皆さんと一緒に取り組む。」と、挨拶した。



紺野社民党県連代表

その後、民進党福島県連の金子恵美代表代行と社民党福島県連の紺野長人代表から連帯激励のご挨拶を頂いた。さらに、県労福協の佐久間通事務局長より給付型奨学金制度導入への現状と課題について報告がなされた。また、今回は、クリスマス商戦で賑わう連休前で人通りも多く、ティッシュを配布しながら、連合が取り組む活動を



佐久間県労福協事務局長

訴えとともに、市民の皆さんに連合福島・労福協の取り組みを理解して頂く良い機会となった。

尚、今回は県内各地域（県中、県南、会津、いわき）でも同様の取り組みを企画・実施した。



足を止め熱心に聞き入る皆さん